

米国の高温・少雨について

1. 概況

2012 年 6 月以降でみると、米国の広い範囲で高温、少雨となっており、6 月下旬から 7 月上旬はこの高温傾向が顕著となった。この高温・少雨により、農作物の生育への影響が伝えられている（米国農務省）。

2. 高温・少雨の状況ⁱ

2012 年 6 月以降、米国の広い範囲で気温は平年より高く、降水量は平年より少ない状況となっている（図 1）。6 月下旬から 7 月上旬はこの高温傾向が顕著となり、7 月 4 日～7 月 10 日の 7 日間平均気温が中西部を中心に多くの地点で平年より 3℃以上高かった（図 2）。米国インディアナ州のインディアナポリスでは、日最高気温が 40℃以上の日もあり、7 月 10 日の時点で 1 月 1 日以降の積算降水量は平年の約 6 割となっている（図 3）。

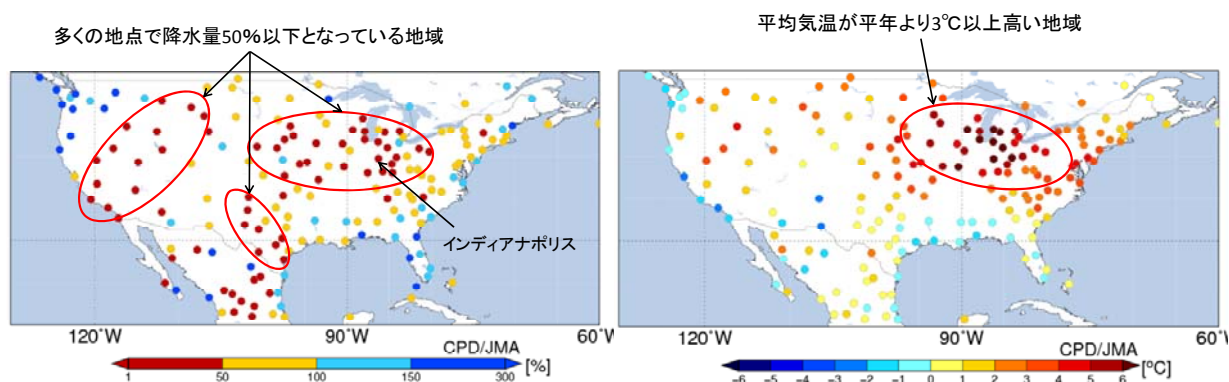


図 1 6 月 1 日から 7 月 10 日までの降水量平年比 (%)

図 2 7 月 4 日から 7 月 10 日までの平均気温の平年差 (℃)

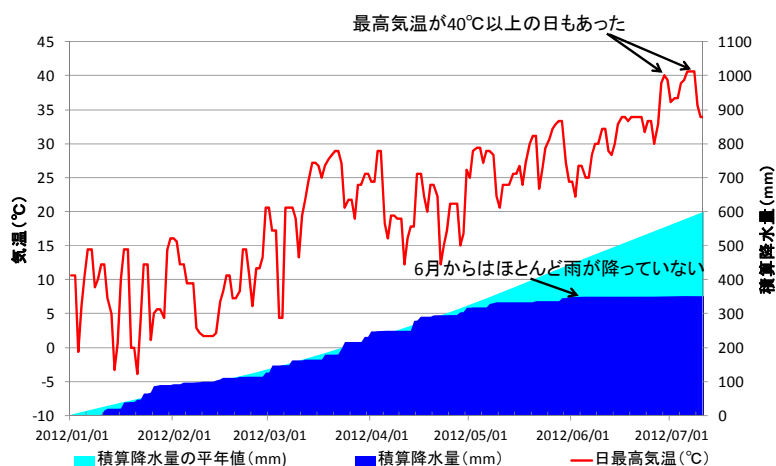


図 3 2012 年 1 月 1 日から 7 月 10 日までの米国インディアナ州インディアナポリスでの気温・積算降水量の経過

ⁱ 米国からの気象通報に基づいて気象庁にて資料を作成

3. 大気の流れの特徴（図4）

米国では偏西風が北に大きく蛇行したことに対応して、暖かい高気圧に覆われ、高温となった。

また、偏西風の北への蛇行に加えて、南からの湿った空気が流入しにくかったことから、低気圧や前線の活動が弱く、少雨となった。メキシコ湾から米国南東海上で積雲対流活動が活発だったことに対応して、大西洋の亜熱帯高気圧の米国南東部への張り出しが弱くなったため、亜熱帯高気圧の西縁に沿って米国に流入する湿った空気が少なくなったとみられる。

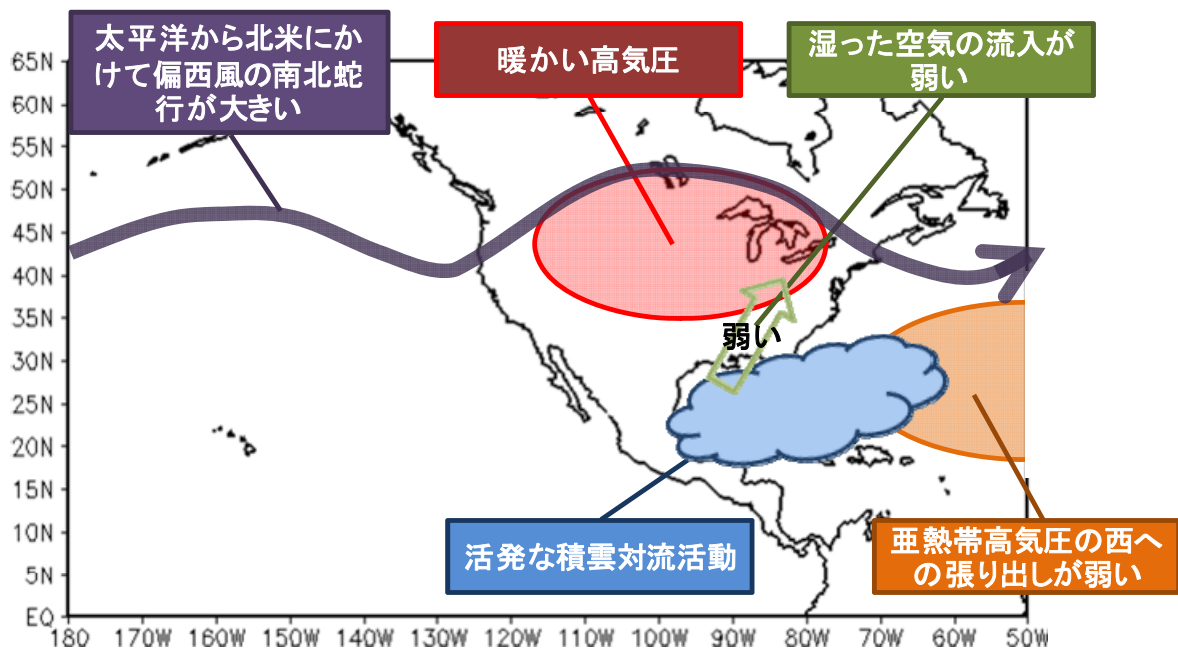


図4 2012年6月1日から7月10日の平均的な大気の流れの特徴（模式図）

なお、米国海洋大気庁（NOAA）の予測によれば、7月中は米国本土の大部分の気温は高く、中西部は平年より降水が少ないとされている。

※本分析にあたっては、異常気象分析検討会ⁱⁱ委員の協力をいただきました。

【本件に関する連絡先】：気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課
03-3212-8341（代表） 内線 3157、3158

ⁱⁱ気象庁が平成19年6月に設置。社会経済に大きな影響を与える異常気象が発生した場合に、大学・研究機関等の専門家の協力を得て、異常気象に関する最新の科学的知見に基づく分析検討を行い、その発生要因等に関する見解を迅速に発表することを目的とする。